

発達心理若手分科会 第1回研究交流会

この度、発達心理若手分科会では、**2025年11月8日(土)**に、発達心理学分野の若手(高校生・学部生・院生・PD等)を対象とした研究交流会を開催いたします。第1回目となる今回は、若手による発達心理学分野の研究発表(口頭発表・ライトニングトーク)に加え、京都大学教育学研究科の高橋雄介先生をお招きし、多様な方を対象としたパーソナリティ特性のご研究や、ご自身のこれまでのキャリアについてご講演いただきます。皆さまのご参加をお待ちしております！

[参加申込フォーム\(Google Form\)](#)

※ 当日参加も可能ですが、人数把握のため、なるべく事前申し込みをお願いいたします。

プログラム(随時更新)

- 日時 2025年11月8日(土)13:00-18:00
- 会場
 - 京都大学 文学研究科 ぶんこも <https://buncomo.jp/>
 - Zoom (お申込いただいた方に後日リンクをお送りします)
- 名前の横に * マークがある方は、オンラインでの発表を予定しています。

13:00-13:10	開会
13:10-	第1部 口頭発表(1人あたり約30分)
13:10-13:40	【O1】 阪本 詩織(京都大学大学院 文学研究科) 「子どものジェンダーステレオタイプの再検討」 ジェンダーステレオタイプ(GS)とは、ジェンダーに基づく性格特性や能力に関する固定的信念を指す。近年、就学初期ですでに子どもはGSを形成している可能性が示唆されている(Bian et al., 2017; Okanda et al., 2022)。子どものGSに関する先行研究は、質問に合う人物を男性か女性のどちらかから1人選ぶ課題(強制選択課題)を用いている。強制選択課題は、各性別と性格特性・能力の連合が不明瞭であること、中間的意見が存在しないためGSが過度に強調されている可能性がある等の限界点が存在する。以上踏まえ、本研究では、各性別が持ちうる性格特性や能力を段階的に評価できる課題を実施し、子どものGSを再検討した。当日は、現在までの予備的な結果を報告する。
13:50-14:20	【O2】 金山 英莉花(同志社大学 心理学部)

	「青年期におけるかわいい感情の規定要因—性別と平等主義的性役割態度に着目して—」 本研究では、平等主義的性役割態度および性別が「かわいい」と感じる感情に与える影響を検討した。330名の大学生を対象に、オンライン質問紙調査を行った。参加者は、「人間の赤ちゃん」「動物の赤ちゃん」「キャラクター」「モノ」の4種類の対象について、どの程度「かわいい」と感じるかを評価した。その結果、男性よりも女性の方が「人間の赤ちゃん」「動物の赤ちゃん」「モノ」に対して強く「かわいい」と感じていることが示された。「キャラクター」については、平等主義的な性役割態度が高い人ほど「かわいい」と感じていた。これらの結果から、「かわいい」と感じる感情は性別および平等主義的性役割態度の双方の影響を受け、その影響は対象の種類によって異なることが示唆された。
14:20-14:40	休憩
14:40-15:10	[03] 吉木 香苗(名古屋大学大学院 教育発達科学研究科) 「幼児期・児童期における相手に応じた悲しみ表出の調整に関する認識」 本研究では、幼児・児童の相手に応じた悲しみ表出の調整に関する認識について検討した。研究1では幼児(4～6歳児)を対象とし、主人公が悲しみを経験する仮想場面を提示し、各相手(父親、母親、友人)に対して見せる表情と悲しみを表出する主人公への相手の反応、各回答の理由を尋ねた。研究2では児童(小学1～6年生)を対象とし、主人公の表情、相手の反応に加え、主人公の表出に対する許容も尋ねた。その結果、5、6歳児が相手の反応の予測をもとに、相手に応じて悲しみ表出の調整を行うと認識していることが示唆された。また、児童については、発達に伴って、「悲しみを知られてもよい」と思うようになることが示唆された。
15:20-15:50	[04] 戸田 梨鈴(大阪大学大学院 人間科学研究科) 「子どもは「悪いこと」に対して、何を考え、どのように立ち向かうのか —第三者罰・ゆるし・介入なしに注目して—」 人は、他者との協力的な関係性を築きながら社会でくらしている。よって、他者がこの関係性を傷つけるような違反行為を行ったとき、私たちは罰したり、ゆるしたり、あるいは敢えて何もしなかったりと、様々な方法で対処し、協力的な関係性を修復しようとする。では、子どもたちは違反行為に対してどのように対処するのだろうか。本発表では、5-6歳児がこれらの違反行為に対する対処をどのように使い分けているか、およびその背景にはどのような動機があるかについて検証した研究を紹介する。また、違反行為に対する子どもの対応についてさらに理解を深めるための今後の方向性について、議論する。
15:50-16:10	休憩
16:10-	第2部 ショートトーク(1人あたり約10分) ※11/8追記: キャンセル発生の都合上、時間前後の可能性がありますが
16:10-16:20	[S1] 古川 陽斗(西九州大学 臨床心理学専攻) *オンライン 「児童養護施設入所児における職員へのアタッチメント特性と基本的心理欲求の関連」

	児童養護施設に入所する子どもは、被虐待経験や不適切な養育などにより、対人関係の形成に困難を抱えやすい。さらに、職員が交代制で勤務する施設環境では、一貫し連続的な養育関係を築くことが難しいという課題がある。本研究では、施設児童が職員に対して抱くアタッチメント特性(不安・回避傾向)が、基本的心理欲求の充足とどのように関連するかを明らかにすることを目的とする。職員へのアタッチメント特性をECR-RS日本語版により測定し、基本的心理欲求の充足度を基本的心理欲求尺度により測定する。両者の関連を分析することで、施設児童における心理的支援および関係性構築の在り方を検討する。
16:20-16:30	[S2] 発表キャンセル 「発表キャンセル」
16:30-16:40	[S3] 李 佳騏(大阪大学 人間科学部) 「赤ちゃんの道徳的期待:「報い」の考えはいつ芽生えるのか」 人は善人は幸せが、悪人には不幸が訪れるべきだと考える。この「因果応報(Moral Desert)」は社会的評価や意思決定に重要であるが、乳児はすでにこの感覚をもつのだろうか。本研究では14か月児を対象に、道徳的行為と自然に生じる結果との結びつきの理解を検討した。本実験は慣化とテストの二段階で構成される。慣化では、主人公が箱を開けようとする場面で、あるエージェントが援助または妨害する行動を提示した。テストでは、行動を行ったエージェントにポジティブ(いちご)またはネガティブ(石)の結果を受ける場面を呈示し、期待違反法で注視時間を測定した。仮説として、乳児はエージェントの道徳性にふさわしい応報的な結果を期待し、ふさわしくない結果に対してはより長く注視すると予測する。本発表では予備的結果を報告する。
16:40-16:50	[S4] 渡部 綾一(京都大学大学院 文学研究科) 「時間順序判断課題を用いた幼児・児童期における時間情報処理の発達」 「何がどの順番にある／あったか」といった対象の時間情報は、私たちの意識体験において重要な要素である。さらに、読み書きといった高次な学習に必要なスキルや、感覚過敏・感覚鈍麻といった感覚の問題にも、時間情報処理が関与している。本研究では、幼児・児童期における時間情報処理の発達を明らかにすることを目的として、4-6歳の幼児と7-12歳の児童、成人を対象に、視覚および聴覚の時間順序判断課題を実施した。本発表では、その途中経過を報告する。視覚課題では、幼児、児童、成人の順に成績が向上する傾向が見られた。一方、聴覚課題では、幼児の成績は低いものの、児童と成人の成績はほぼ同程度であることが示唆された。
16:50-17:00	休憩
17:00-18:10	招待講演
	高橋 雄介先生(京都大学大学院 教育学研究科) 「パーソナリティ特性の個人差の発達」 高橋先生は、人間のパーソナリティ特性の個人差というテーマについて、就学前のお子さんと親御さん、大学生、双生児の方などさまざまな種別・年齢層の方々を対象に検討し

	てられました。当日は、これらのご研究について紹介いただくとともに、先生ご自身のご経歴やキャリアについてもお話を伺う予定です。
18:10-18:20	クロージング・閉会
19:00-	懇親会（現地のみ・要事前申込）